

まつやまじょうこてんしゅ  
松山城小天守 1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

小天守は、ロ字形平面形の連立式天守東南隅に建つ二重二階櫓。

天明4年(1784)元旦に落雷による火災で焼失したものを安政元年(1855)に再建し、更に昭和8年(1933)の放火により焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したものである。昭和8年旧国宝指定のために文部省係官による調査が行われたが、松山市は昭和10年松山城天守ほか旧国宝に指定されたあと、ただちに文部省に依頼して9棟の基本設計を作成してもらっており、この基本設計図と仕様書に基づき復元を行ったことから、幕末に完成した建物を忠実に再現したといえる。

大きさは天守に次ぐ2番目で、外観は2階が1階よりやや小さい形で乗せられ、屋根の軒の出は1・2階とも小さく、1階屋根の南面には千鳥破風ちどりばふが付けられている。外壁は1階の腰部分を簷子下見板張きさらこしたみいたばりとし、その上部と2階は漆喰塗籠しっくいぬりごめとしている。外側に当たる東南二面には庇付の石落しを備え、守備機能を充実させており、天守中枢部の構えを形成している。



まつやまじょうみなみすみやぐら

## 松山城南隅櫓 1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

南隅櫓は、ロ字形平面形の連立式天守西南隅に建つ二重二階櫓。

小天守と同様に、昭和8年(1933)の放火により焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したもの。

一重目西面に千鳥破風を付け、一階は簷子下見板張、二階は軒裏まで漆喰塗籠で仕上げる。連立の外側に当たる西南二面には庇付の石落しを備え、2階に高欄こうらんを廻すことが特徴である。天守中枢部において隅角部の構えを形成している。



## 松山城北隅櫓 1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

北隅櫓は、ロ字形平面形の連立式天守西北隅に建つ二重二階櫓。

小天守と同様に、昭和8年(1933)の放火により焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したもの。

一重目西面に千鳥破風を付け、一階は簷子下見板張、二階は軒裏まで漆喰塗籠で仕上げる。外観、構造ともに南隅櫓と同規模同形式で、天守北西面の構えを左右対称に整えるとともに、多層建築が連なる重厚な天守景観を形成している。



まつやまじょうげんかんたもんやぐら  
松山城玄関多聞櫓 1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

玄関多聞櫓は、北隅櫓の東側、内門の西側に接続する一重多聞櫓で、南面に玄関が接続する。

小天守と同様に、昭和8年(1933)の放火により焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したもの。

外観は、簷子下見板張、軒裏までの漆喰塗籠で、北面中央に庇付の石落しを備える。内部は、南側が一間幅の廊下を通し、北側は舞良戸まいらどで仕切られ一室となる。天守玄関部の構成を示す。



まつやまじょうげんかん

## 松山城玄関 1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

玄関は、玄関多聞櫓の南面に接続して建つ。

小天守と同様に、昭和8年(1933)の放火により焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したもの。

式台と玄関多聞櫓に上がる階段からなり、上り勾配の向唐破風本瓦葺きの屋根をか  
ける。式台は側面に壁を設けず開放し、正面柱上の虹梁に<sup>こりょう</sup> 臺股、小壁に<sup>おさらんま</sup> 箴欄間を備え  
る。また、臺股、鬼瓦、兎ノ毛通しには、松平家の三つ葉葵紋をあしらうなど、天守玄  
関に相応しい格調高いつくりをみせる。



まつやまじょうじゅっけんろうか  
松山城十間廊下 1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

十間廊下は、南隅櫓と北隅櫓をつなぐ一重多聞櫓。

小天守と同様に、昭和8年(1933)の放火により焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したもの。

外観は、南北両櫓と一連の漆喰塗及び簷子下見板張とし、西面三箇所に庇付き石落しを備える。内部は一室で、和小屋を現し、外側西面に狭間を<sup>さま</sup>整然と並べる。

天守防御の城郭構造の要衝となる建物である。



まつやまじょうたもんやぐら  
松山城多聞櫓

1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

多聞櫓は、小天守と南隅櫓をつなぐ一重多聞櫓。

小天守と同様に、昭和8年(1933)の放火により焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したもの。

外観は各櫓と共通の漆喰塗及び簷子下見板張とし、外側の南面に庇付き石落しを備える。内部は一室で、小天守側の上り階段上の出入口に両開きの土戸を備える、十間廊下と同様天守防御の城郭構造の要衝となる建物である。



まつやまじょうすじがねもん

## 松山城筋鉄門 1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

筋鉄門は、天守と小天守の間に建つ一重櫓門。

小天守と同様に、昭和8年(1933)の放火により一部焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したもの。

一間一戸脇戸付で、その名の通り柱角などに鉄板(筋鉄)を打付け補強する。外観は天守と共通の漆喰塗及び彫子下見板張。上層は渡廊下とし、両側出入口に土戸を備える。

三ノ門と共に天守南側の枡形を形成し、天守の堅牢な門構えを形成している。





まつやまじょううちもん  
松山城内門 1棟

1. 所在地 愛媛県松山市丸之内1
2. 建築年代等 昭和42年上棟
3. 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
4. 特徴・評価

内門は、天守と玄関多聞櫓の間に建つ一重櫓門。

小天守と同様に、昭和8年(1933)の放火により一部焼失したものを、昭和43年(1968)5月27日竣工で復元したもの。

一間一戸脇戸付で、外観は天守と共通の漆喰塗及び簷子下見板張とする。上層は渡廊下とし、両側出入口に両開きの土戸を備える。

仕切門と共に天守北側の枡形を形成し、筋鉄門と同様、天守の堅牢な門構えを形成している。

